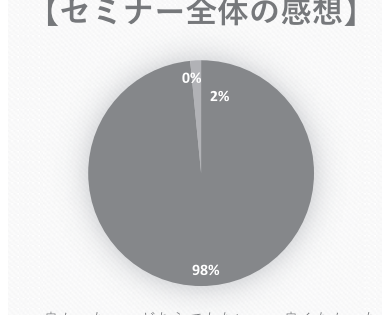
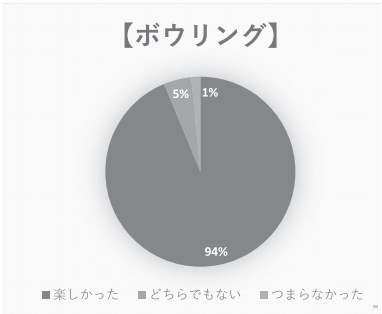
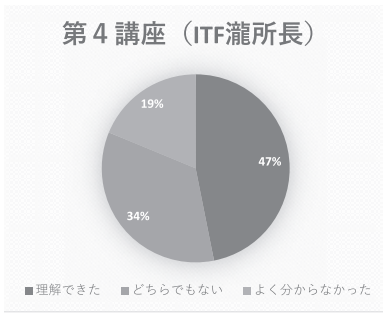
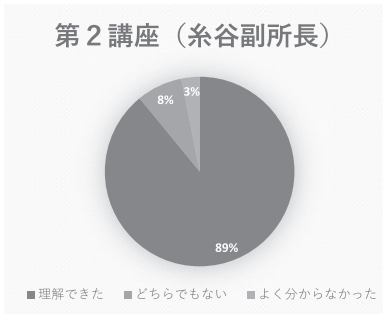
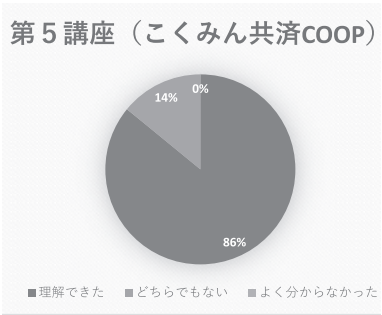
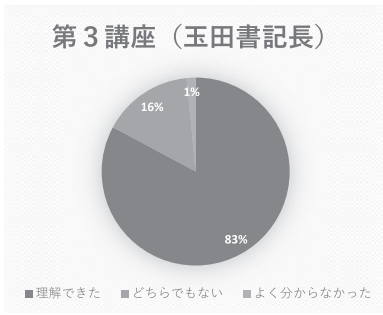
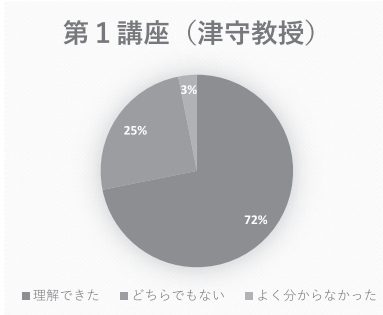


# 参加者の感想

第18回港湾労働セミナー  
参加の皆様感想文を集計し、グラフにまとめました。  
皆さまの意見や感想を参考に、今後のセミナーの企画・運営につなげていきたいと考えております。



①産別運動の歴史、諸先輩方の活動が聞けて良かった。  
②地方港の貨物が集約化されるなかで、あらためて労使が一体となり声をあげなければ雇用・職域は守れないと感じた。  
③25春闘のたたかいの取り組みと検証、そしてたたかいがあり、貴重な体験ができた。

④反戦・平和について重要性をあらためて痛感した。  
⑤春闘説明、特定利用港湾について理解できたが、もう少し時間がほしいかった。  
⑥世界の港湾の活動について話を聞いたのが初めてで、貴重な体験ができた。

⑦今後のために共済年金など検討してみようと思う。  
⑧はじめはボウリングに難色を示していたが、実際にやってみるとすごく楽しかった。続けてもらいたい。  
⑨初参加で講師陣の話、グループ討論など交流を通じて参加者の意識の高さを知り、自身も勉強しようと思えるセミナーであった。  
⑩産別労使協定が港湾秩序を保つのに重要であることが理解できた。また、行政を動かすことが出来なければ近隣諸国の港湾に対抗し得る技術改革とはならないと感じた。

## こくみん共済

全国労働者共済生活協同組合連合会



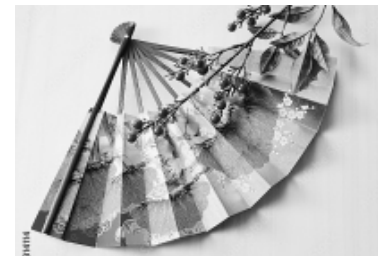
## リレー随筆 涼を納る

今年の梅雨は、入り方も異常だ。例年だと沖縄地方から九州南部の順だが、九州南部が一番早く梅雨入りし、沖縄は例年より遅い梅雨入りと初めてのケースとなった。天候も雨が降れば土砂降り、線状降水帯が発生すれば冠水や鉄砲水など災害規模となる。晴れたら晴れたで真夏日続出となり

今年、梅雨は、入り方も異常だ。例年だと沖縄地方から九州南部の順だが、九州南部が一番早く梅雨入りし、沖縄は例年より遅い梅雨入りと初めてのケースとなった。天候も雨が降れば土砂降り、線状降水帯が発生すれば冠水や鉄砲水など災害規模となる。晴れたら晴れたで真夏日続出となり

猛暑・酷暑と茹だる暑さに見舞われる亜熱帯のような気候である。今季、既に東海地方までは早い梅雨明けで四季も薄れ二季化が進み夏期間は長く暑さが災害級になると想定されている。

暑さを凌ぐ物では扇子が代表的な小道具だが、一般的に分業制で其々の専門職人によって作られる京扇子と最初から全ての工程を一人の職人が仕上げる江戸扇子に大きくは分類できる。歴史は長く奈良時代には既に原型があり、平安時代初期の当初は扇目目的ではなく、折りたたみ式筆記用具として用いられたのが起源らしく、しかも日本が発祥とされる。時を経て竹の骨組みの片面に紙を張った蝙蝠（コウモリ）扇が貴族階級で普及、鎌倉時代には中国を経由し西洋にまで伝わったとされ、南北朝・室町時代には両面紙張り扇子が逆輸入されたところ。この時期から能や演舞、茶道などで様々な表現小道具として庶民使用され、歌舞伎にも通じているようだ。扇いで涼をとる現在の形は江戸時代になってからとされる。古来より日本では、涼を感じる文化が根付いてきた。扇子もその一つだが、風鈴・或いは鈴虫の音色など耳からのもの、ホタルや金魚、火花は目から感じるもの、また味覚から涼感を得る趣あるものが想像できるとして、色々と試みて近頃の暑さは、その風情をも吹き飛ばす。扇子を使う仕草も暑さのあまりバタバタ扇ぐ



と情緒も薄らいでしまう。扇子もピンキリで、扇面の絵柄がプリントのものや手描きがあり、骨組みの竹の素材が古民家の屋根裏から取れる煤竹と云った希少物から消石灰などで染上げたもの、竹素材そのものと様々である。地紙（和紙）の扇面が両面手描きで扇骨素材が煤竹で更に文化功労者の職人が手掛けた製品なら、かなり高価なものになるが風合いがとってもいい感じだ。しかし、近年の亜熱帯気候では涼感や涼し気な、とする気分的なものだけでなく、もはや通用しなくなっている。直接的で本当に身体を冷やせる道具、ハンディファンやクールネット、クリンクが人気商品になることも頷けるが、夏めく・



国港湾運動方針に基づき、

しかし、全国港湾労働者は次年度方針案での基調第三項目のなか

（全国港湾委員長・日港湾委員長 竹内 一）

「港湾を兵站基地にするな!」「港湾労働者と戦争を考える」

参議院選で憲法9条を基本とした平和外交路線を!

7月20日によいよ参議院選挙が行われる。読者で終結している可能性が高いある仲間の皆様は本稿を読むわけだが、あえて寄稿させてもらいたい。

まずは、現時点に於いて全国港湾として直接候補者への投票指示についてはできない立場である。

しかし、全国港湾労働者は次年度方針案での基調第三項目のなか

こうした場合から、本参議院選挙が我々港湾労働者の目線にたった議員が当選してくれることを切に願うものであり、仲間の皆様におかれましては、どうか全国港湾の基本方針である、港湾労働者の真の安全、命の安全を前提とした議員への投票をお願いしたい。

そして、このことが、前回の寄稿でも書かせていただいた、港湾労働者の生命の安全と戦争反対平和の訴えを行動に移すとした具体的な取り組みの大きな一歩ではないだろうか。